

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	30	—	事業名	巡回バス運行事業	担当部課	くらし文化部安心安全課
------	----	---	-----	----------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	2	リコモでにぎわい交流するまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	6	快適で便利な交通移動を確保する	款	2	総務費
		施策の進め方	2	バス路線網整備の充実	項	1	総務管理費
	まちづくり行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	12	巡回バス運営費
		政策分類	6	地域の安心安全をみんなでつくる	大事業	2	巡回バス運行事業
	その他(関係法令、要綱等)	—					
事業開始の背景、経緯等	平成9年の住民意識調査において、住民ニーズの最も高い項目として「公共交通機関の整備や利用」が挙げられるなど、公共交通の整備・充実が多くの市民の要望であることがわかった。このため、当時、先進自治体でその活用が模索され始めた「巡回バス」や「コミュニティバス」に着目し、新たな市民の足づくりに向けた検討を始めた。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市内巡回バス「N-バス」として、5台の小型バスと1台のワンボックス車で、7ルート、74便/日、年間359日の運行を行う。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民対象					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・市内交通空白地帯の解消 ・公共施設の利便性の向上 ・子育て支援 ・高齢者や子ども等交通弱者の社会参加の促進					
	事業を構成する事務事業	① 巡回バス運行事業	改善・見直し	④			
	②		⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算		102,516	112,657	114,275	118,454
			決算		107,644	109,886	111,900	
	人件費(B)	千円	決算		—	5,347	5,558	
総コスト(A)+(B)	千円	決算		—	115,233	117,458		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 乗車数	千人	目標	—	234	243	246	265
			実績	232	241	244	262	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 前年度実績の1%増								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 「市内交通空白地帯の解消」、「公共施設の利便性の向上」、「高齢者や子ども等交通弱者の社会参加の促進」を目的として運行を始めたN-バスだが、近年では、公共交通としての利便性を求められるようになり、ニーズの変化を感じる。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 乗車数は年々増加している。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 費用負担が大きい。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 運行を継続することにより、引き続き市民のための公共交通となる。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 今後10年先も、N-バスが継続して運行できるよう、他の公共交通の動向を踏まえながら、事業目的や利用料金の見直しを行いたい。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		巡回バス運行事業									
番号	①	事務事業名	巡回バス運行事業	款	2	項	1	目	12	大	2	中	1
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成10年度		終了（予定）年度		—					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・ 市民対象 ・ 市内巡回バス「N-バス」として、5台の小型バスと1台のワンボックス車で、7ルート、74便/日、年間359日の運行を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・ 市内交通空白地帯の解消 ・ 子育て支援 ・ 公共施設の利便性の向上 ・ 高齢者や子ども等交通弱者の社会参加の促進

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算	— —	102,516 107,644	112,657 109,886	114,275 111,900	118,454
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 巡回バス運行業務負担金						110,363	千円
② 印刷製本費						666	千円
③ 消耗品費						303	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
乗車数	千人	目標	—	234	243	246	265
		実績	232	241	244	262	
		目標					
		実績					

<備考：活動の概要（当該事業年度）>

- ・ 359日運行した。
- ・ 年末（12/29～12/30）試行運行の実施

4. 事務事業を取り巻く環境変化

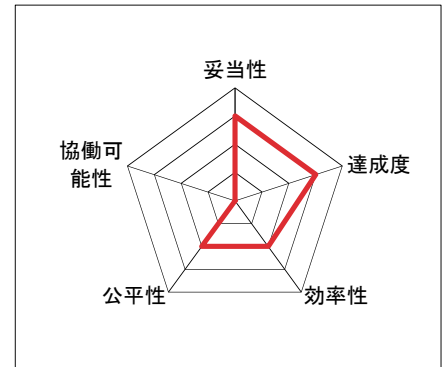
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
公共施設の利便性向上を目的として、運行を始めたN-バスだが、近年では、公共交通としての利便性を求められるようになり、ニーズの変化を感じる。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
※新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	2
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
・ 乗車数は年々増加している。 ・ 今まで運休していた年末について、今年度、初めて試行運行を実施した。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
小型バス3台の買い替えを控えており、費用負担が大きい。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
現在運休している年末の運行について、試行運行をあと数年実施し、検討する。